

支倉常長像・日本広場

支倉常長生誕400年を記念し、1972年、宮城県出身の彫刻家・佐藤忠良氏作の支倉常長像が青葉山に建立されました。その後、慶長遣欧使節の寄港地であるアカプルコにも同じ銅像を建てようという機運が盛り上がり、宮城県、河北新報社、仙台市が共同でアカプルコ市へ寄贈することになりました。

1973年にアカプルコにて行われた支倉常長像の除幕式には、小岩・仙台市助役、行方・仙台市議会議長をはじめ、宮城県知事、河北新報社社長ら仙台からの訪問団約40名が参加しました。

最初に設置されたオルノス・ビーチでは、支倉常長像の視線は太平洋、そしてその彼方にある仙台の方向を向いていました。その後移転等がなされ、1997年には世界の著名な偉人の像が設置されている、コステラ・ミゲル・アレマン大通りの中央分離帯へと移されました。

建立後しばらくは「サムライモニュメント」として観光スポットになった支倉常長像も、移転を繰り返す中で、その名前や由来が風化していきます。このような状況を憂えた「メキシコ宮城青葉会」（在メキシコ宮城県人会）が中心となり、支倉常長像を海岸近くの場所に移設するよう、アカプルコ市へ働きかけました。

その結果支倉常長像は、2010年、日本メキシコ交流400周年を記念して開設された日本広場へと移設されました。上陸当時、支倉常長の視線は自分が進むべきメキシコの陸地に向けられていたと考えられることから、現在、銅像は海に背を向け、日本広場の正面入り口を臨む形で設置され、日本広場に来る人々を出迎えています。



(オルノス・ビーチの支倉常長像)



(コステラ・ミゲル・アレマン大通りの支倉常長像)



日本広場は、日墨交流400周年を記念し、アカプルコ市がカラバリ・ビーチに開所したものです。入り口には、日本広場の由来を書いた石盤が設置されています。現在、同広場には、支倉常長像のほか、御宿町が寄贈した日墨交通発祥記念碑も設置されています。

(日本広場開所式 2010年 左から2番目が伊藤・仙台市副市長、左から3番目がバニョス・アカプルコ市長)



日本広場に建つ支倉常長像



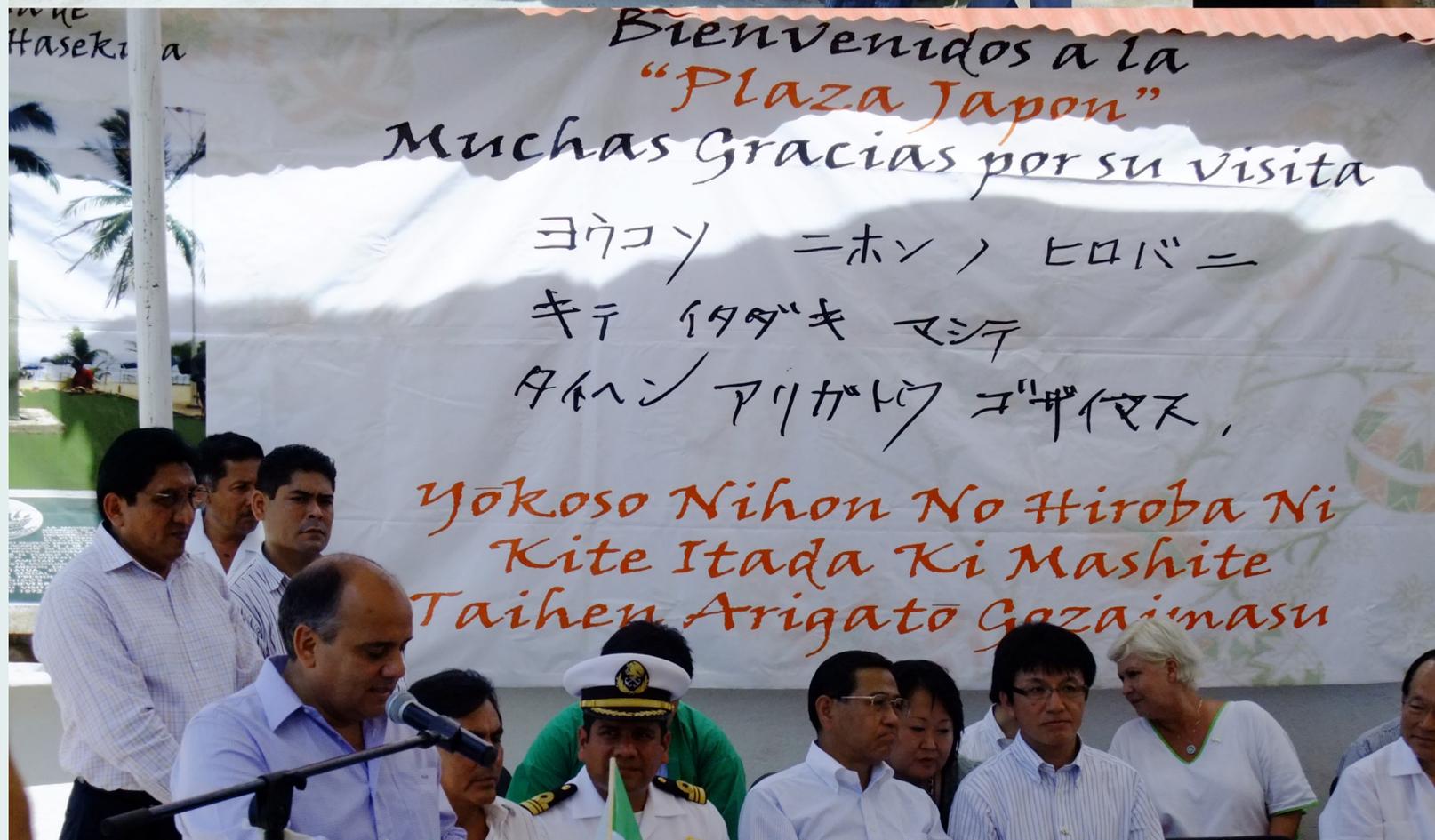
2010年 日本広場開所式・支倉常長像移転除幕式



2010年 支倉常長像を囲む現地の生徒たち



2010年 日本広場全景



2010年 日本広場開所式